



越後上越 上杉おもてなし 武将隊

上杉謙信公を中心とした武将たちが春日山城跡をはじめ、市内の観光施設やイベント会場で観光客のおもてなしや、演武をして、上越市の観光PR活動を行っています。
http://www.uesugi-busyotai.com/

五智国分寺 G

奈良時代の国分寺の所在は不明ですが、現在の五智国分寺は謙信公が再興したもので、境内には竹之内草庵があります。
☎025-543-3069
🚗直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車



浜善光寺(十念寺) H

謙信公が武田信玄の侵略から守るため信濃善光寺の本尊を移したと伝えられている寺。
☎025-543-4872
🚗直江津駅からバス5分・「五智2丁目」下車徒歩3分、北陸自動車道上越ICから車で10分



府中八幡宮 I

越後の総社として長く重んじられてきました。謙信公にも崇敬され、以後も高田城主から代々篤く保護されたため、多くの文化財を蔵しています。
☎025-543-6849
🚗直江津駅から徒歩5分



御館跡(御館公園) J

謙信公が関東管領・上杉憲政の居館として建設した関東管領館。春日山城下に設けられ、後に謙信公も政庁として使用しました。謙信公の死後、上杉景勝と上杉景虎による跡目争い「御館の乱」の舞台となった場所。
☎025-526-5111(観光振興課)
🚗直江津駅から徒歩10分、北陸自動車道上越ICから車で10分

居多神社 F

居多神社は越後一宮であり、越後国司や守護上杉家、謙信公の厚い保護を受けました。謙信公はここで戦勝祈願をしたといわれています。
☎025-543-4354
🚗直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車徒歩6分



春日山城跡ものがたり館 E

ものがたり館では春日山城を紹介するビデオ上映のほか、関連資料が展示されています。
※日本百名城スタンプラリースタンプ設置所(休館中は上越市埋蔵文化財センターに設置)
☎9:00~16:30
📅月曜日(祝日の場合は翌日)、12月1日~2月末
🎫無料 ☎025-544-3728
🚗春日山駅からバス10分・「ものがたり館入口」下車徒歩3分



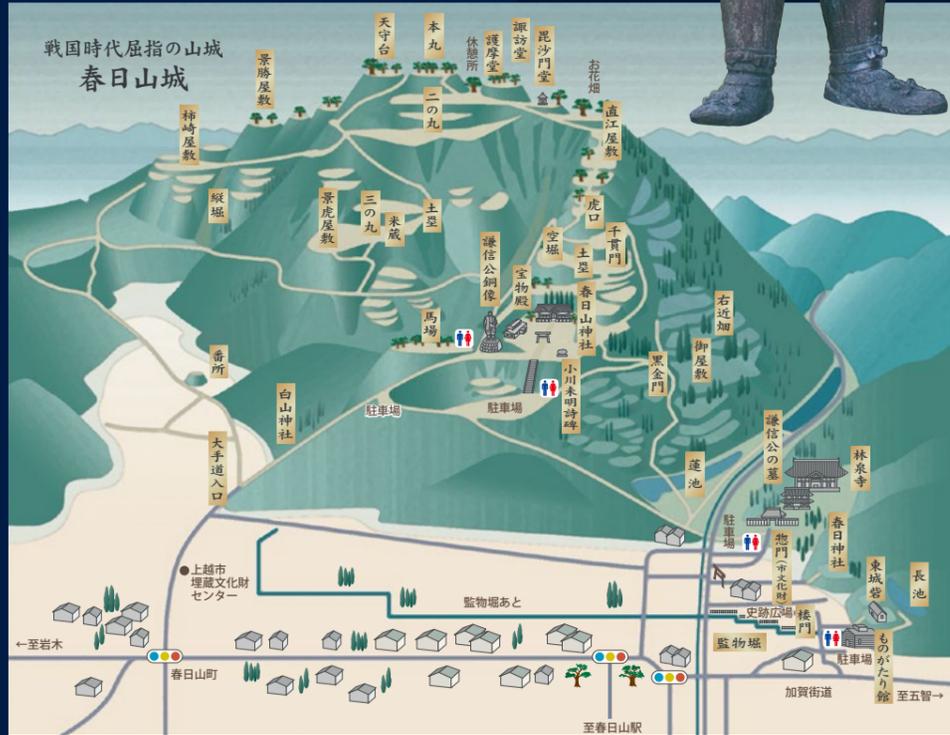
春日神社 D

越後守護上杉氏の氏神。春日山城築城のとき鬼門神として山頂から遷座したと伝えられ、春日山城の名前の由来となっています。
☎025-525-2010
🚗春日山駅からバス10分・「ものがたり館入口」下車徒歩5分

戦国の名将 上杉謙信公

享祿3年(1530)越後守護代長尾為景の末子として生まれました。謙信公14歳のとき、守護代となつた兄・晴景を助けるため中郡(中越地方)を平定。19歳で兄に代わつて越後守護代となると、春日山城を居城として越後を統一する一方、信濃・関東・北陸へと出兵します。なかでも、武田信玄に領地を奪われた村上義清ら北信濃の武将を助けるために出陣し、五度に渡つて信玄と激戦を展開した「川中島の合戦」はことに有名です。
この間、関東管領上杉憲政が北条氏に敗れ謙信公を頼つてくると、

これに承えて小田原城を攻め、永祿4年(1561)には謙倉の鶴岡八幡宮で憲政の頼みで山内上杉氏を相続し、関東管領に就任しました。謙信公の上洛を恐れた織田信長は、狩野永徳筆「洛中洛外図屏風」を謙信公に贈るなどして機嫌を取りましたが、信長の加賀侵攻を契機に謙信公は出陣、天正5年(1577)「手取川の戦い」で信長軍を破りました。
「第一義」を掲げ関東平定・上洛に向け歩を進めていた謙信公でしたが、天正6年(1578)、脳出血により倒れ、49歳の生涯を閉じました。



林泉寺 C

謙信公が7歳から14歳まで、名僧・天室光育の下で厳しい文武の修行を積んだ寺。市指定文化財の惣門は春日山城の裏門を移築したものとされています。
☎9:00~17:00
🎫大人500円、小・中学生250円
☎025-524-5846
🚗春日山駅からバス9分・「林泉寺入口」下車徒歩10分



運は天にあり
鎧は胸にあり
手柄は足にあり



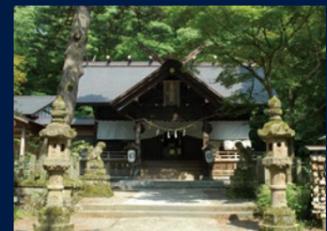
上杉謙信公の 郷めぐり

戦国の名将・「義」の武将



上越市埋蔵文化財センター A

埋蔵文化財に関する情報を提供する施設で、発掘された出土品から歴史の流れを知ることができます。敷地内には馬上謙信像があり、春日山めぐりのはじまりです。
☎9:00~17:00
📅火曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
🎫無料 ☎025-521-6280
🚗北陸自動車道上越ICから車で15分



春日山神社 B

童話作家小川未明の父・澄晴が上杉謙信公を祀るために創建したものの。謙信公や未明に関する資料を展示する春日山神社記念館があります。
☎9:30~16:30(記念館)
📅12月1日~3月31日(記念館)
🎫大人200円、小・中学生100円(記念館)
☎025-525-4614
🚗春日山駅からバス5分・「春日山荘前」下車徒歩30分

時めぐり コラム 国指定史跡 春日山城跡



為景・晴景・謙信・景勝の4代の居城であった春日山城は、標高180mの春日山に築かれた壮大な山城です。山頂・本丸跡からは謙信公も眺めたであろう日本海や頸城平野、それを取り巻く山並みを一望できるほか、城全体にわたって自然の地形を活かした郭、空堀、土塁などが無数に築かれ、現在でもその一部を目にすることができます。
当時に想いを馳せながら毘沙門堂・景勝屋敷跡・直江屋敷跡や大井戸跡など城跡に点在する遺構を巡ること、壮大な戦国ロマンを体感することができます。

春日山 時めぐり KASUGAYAMA Model course

所要時間 🚗+🚶5時間

※所要時間は移動時間と見学時間を含めた目安です。

- 謙信公の郷めぐり
モデルコース
- A 上越市埋蔵文化財センター
🚗3分 ↓ 🚶10分
 - B 春日山神社
🚗3分 ↓ 🚶10分
 - C 林泉寺
🚗2分 ↓ 🚶5分
 - D 春日神社
🚗5分 ↓ 🚶10分
 - E 春日山城跡ものがたり館
🚗10分 ↓
 - F 居多神社
🚗2分 ↓ 🚶5分
 - G 五智国分寺
🚗5分 ↓
 - H 浜善光寺(十念寺)
🚗5分 ↓
 - I 府中八幡宮
🚗5分 ↓
 - J 御館跡(御館公園)
🚗5分 ↓



上杉謙信公のふるさと

※P.8の地図参照

時めぐり コラム

親鸞聖人と恵信尼

親鸞聖人は、承元元年(1207)、専修念仏の弾圧をうけ、京都から越後国府(上越市)に流罪となりました。時に親鸞 35歳。親鸞はこの地で42歳までの人生において最も重要な時期を過ごしました。

親鸞聖人の著書に「海」という言葉が多いのは、日本海を見つめた日々が影響しているためだといわれています。

親鸞聖人の妻、恵信尼は晩年を板倉(現上越市板倉区)で暮らし、この地で亡くなりました。その生涯は流罪となった親鸞聖人を支え、東国に移住してからは各地を転々とし、晩年は板倉に戻り、飢餓のなか子どもや孫たちまでも面倒をみるといった苦難の多いものでした。しかし恵信尼は、そうした苦難にも負けず、たくましく、ときにはユーモアをもって、当時としては稀な87歳をこえる長寿を全うしました。恵信が残した「恵信尼文書」は、恵信や親鸞の生活をあざやかに描き出し、また鎌倉時代の女性の筆による史料として貴重なものとなっています。



「恵信尼像」部分(複製)(糸しんの里記念館) 恵信尼の墓といわれる恵信尼石塔(糸しんの里記念館)

糸しんの里記念館(板倉区) K

親鸞聖人の妻・恵信尼は晩年を板倉で暮らし、この地で亡くなったといわれています。恵信尼ゆかりの歴史的資料や関連書物等が展示されているほか、恵信尼廟所には恵信尼の墓といわれる恵信尼石塔(市指定文化財)があります。

9:00~17:00
火曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日
無料 ☎0255-81-4541
上越自動車道越後高田から車で25分
新井(ターミナル)からバス9分・「熊川新田」下車徒歩3分



浄興寺(高田寺町) N

親鸞聖人が常陸国(茨城県)で「教行信証」を著した寺。下総・信濃へと移り川中島合戦で消失し、謙信公の招きによって春日山城へ。その後、福島城下を経て高田城築城とともに現在地へ移ります。本堂(重要文化財)は平成16年に大修理を終え、往時の姿がよみがえっています。

☎025-524-5970 高田駅から徒歩7分



国府別院 M

親鸞聖人が竹之内草庵から移り、妻恵信尼と住んだといわれる旧跡。後に浄土真宗本願寺派の別院となりました。本堂(市指定文化財)の天井は美しい極彩色です。

☎025-543-2742
直江津駅からバス10分・「国府別院前」下車



竹之内草庵 L

親鸞聖人が上陸した後の最初の住まい。伝親鸞聖人坐像(市指定文化財)が安置されています。

☎025-543-3069(五智国分寺)
直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車



親鸞聖人 上陸の地

居多ヶ浜 K

配流の身となった親鸞聖人が上陸した地。公園として整備され、展望台から日本海に沈む夕日を眺めれば、聖人の昔をしのぶことができます。また近くの居多神社には越後七不思議の一つ「片葉の葦」や記念堂があります。

☎025-526-5111(観光振興課)
直江津駅からバス8分・「居多ヶ浜」下車徒歩3分



居多神社 F

親鸞聖人が参拝したと伝えられる神社で、親鸞聖人にまつわる越後七不思議の第一番「片葉の葦」が群生しています。

☎025-543-4354
直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車徒歩6分

越後・上越には、浄土真宗の祖・親鸞聖人と恵信尼(えしんに)に関わる史跡や伝承が数多く残されています。越後七不思議のひとつ「片葉の葦(かたはのあし)」をはじめとした、親鸞聖人が使ったと言われる養命清水(ようめいしみず)、鏡ヶ池の水面に姿を写して刻んだ像など、800年の時を経てなお訪れる者に感動を与えます。ゆっくりと時間をかけて、親鸞聖人と恵信尼の旧跡を訪ねてください。



親鸞聖人 ゆかりの旅

親鸞聖人 ゆかりの旅

時空をこえて、歴史を旅する。



所要時間 車+人 4時間

※所要時間は移動時間と見学時間を含めた目安です。

親鸞聖人ゆかりの旅モデルコース

K	親鸞聖人 上陸の地 居多ヶ浜	2分	↓	5分
F	居多神社	2分	↓	5分
G	五智国分寺		↓	1分
L	竹之内草庵	5分	↓	15分
M	国府別院	30分	↓	
N	浄興寺	40分	↓	P.10 参照
O	糸しんの里記念館			P.18 参照

親鸞 年譜

承安3年(1173) 親鸞誕生。誕生場所・幼名などは不明。
養和元年(1181) 親鸞9歳。春に天台宗青蓮院慈円(「愚管抄(ぐくわんしょう)」著者)の元で出家。比叡山延暦寺に登り、堂僧として修行をする。以後、29歳までの20年間をここで学ぶ。

承元元年(1207) 専修念仏禁止により、親鸞(85歳)は越後国府へ配流。

配所では藤井善信という俗名を名乗り「僧に非ず俗に非ず」という生活を送ることになる。赦免まで5年、その後の2年間の越後での生活についてはほとんど分かっていないが、この間に恵信尼と結婚し信蓮男が生まれている。この頃には、今の国府別院の地小丸山に住んでいたと伝えられている。越後七不思議などの伝説が数多く伝わっている。

建保2年(1214) 妻子を伴って常陸(茨城県)へ移住。

元仁元年(1224) この年より主著「教行信証」を著して浄土真宗を開く。

「教行信証」のなかに海という言葉が数多く現れたのは、越後国府で日本海を見つめた日々が深く影響しているといわれている。

弘長2年(1262) 舎弟・尋有の善法院で親鸞(90歳)死去。

華やかな 府中文化が栄えた 越後国府



五智国分寺 G

謙信公がこの地に再古式にのっとった鎌美しい三重塔は未完配所竹之内草庵があります。山門・経蔵・境内地は市指定文化財。

☎025-543-3069
直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車



五智歴史の里会館 W

親鸞聖人上陸の地の名所・旧跡を巡る絶好のポイントにある施設で大駐車場に隣接し、観光情報や土産品、無料休憩室を完備。

9:00~18:00 ☎12月29日~1月3日
☎025-543-3222
直江津駅からバス6分・「五智国分寺裏門」下車徒歩6分



高田 時めぐり

TAKADA Model course

城下町高田さんぽ

四〇〇年の歴史が語りかけるまち

所要時間 + 4時間

※所要時間は移動時間と見学時間を含めた目安です。

高田城下町さんぽモデルコース

- P** 小川未明生誕の地 3分 ↓ 5分
- Q** 町家交流館 高田小町 1分 ↓ 2分
- R** 高田世界館 10分 ↓ 25分
- S** 高田城三重櫓 2分 ↓ 5分
- T** 榊神社 5分 ↓ 20分
- U** 旧師団長官舎 5分 ↓ 20分
- V** 高橋孫左衛門商店 5分 ↓ 20分

※P.10の地図参照



400年の歴史 城下町高田

高田城物語

高田城は、慶長19年(1614)に、加賀の前田氏、米沢の上杉氏など13の大名による天下普請で築城され、徳川家康の六男・松平忠輝公の義父伊達政宗が普請総裁として指揮をとり、大坂の陣を目前にして、わずか4カ月たらずで竣工させています。

松平忠輝公は文禄元年(1592)に生まれ、8歳のとき伊達政宗の娘五郎八姫と婚約。慶長15年(1610)、堀氏に替わって越後福島城に入りましたが、福島城を廃して高田城を築きました。しかし、元和2年(1616)改易となりました。その後、高田城には御三家に次ぐ家格をもつ松平光長が入り、高田藩最大の賑わいを迎えることになりました。

現在は新潟県の指定史跡となっているほか、平成29年(2017)4月6日には(公財)日本城郭協会により「続日本百名城」により「続日本百名城」に選ばれました。

高橋孫左衛門商店



江戸時代の戯作家・十返舎一九の「金の草鞋」にも紹介された、約390年続く給屋です。主屋は国の登録有形文化財に登録されています。

🕒 8:30~19:00 水曜日(8月除く)
☎ 025-524-1188
📍 高田駅からバス9分・「南新町入口」下車 徒歩3分

旧師団長官舎



明治43年(1910)、旧陸軍第13師団長であった長岡外史中将によって建てられた官舎を移築・復原したもので、市内に残る数少ない明治期の洋風建築物です。

🕒 9:00~16:30 月曜日・祝日の翌日・12月29日~1月3日 ※冬期休館有
🆓 無料 ☎ 025-526-6903(文化振興課)
📍 高田駅から徒歩15分

榊神社



徳川四天王といわれた藩祖・榊原康政を祭神とする神社で、境内には雙輪館があり、榊原氏代々の遺品が展示されています。

☎ 025-523-5276
📍 高田駅からバス6分・「大手町十字路」下車 徒歩1分



茶糸素懸威黒漆補五枚胸具足 鉢巻型兜付(市指定文化財)



高田城三重櫓

高田城には天守閣や石垣は築かれず、越後最大の雄藩にふさわしい三重櫓がシンボルでした。平成5年(1993)絵図や古文書をもとに復元されました。

🕒 9:00~17:00
📅 月曜日・休日の翌日・12月29日~1月3日
※冬期休館有
🎫 一般300円、小・中・高校生150円
☎ 025-526-5915
📍 高田駅からバス9分・「高田公園入口」下車 徒歩5分

高田世界館

明治44年(1911)に芝居小屋「高田座」として建てられたもので、現役で営業上映をしている映画館の建物としては日本最古級と言われています。(国登録有形文化財)

🕒 9:30~19:00頃 休 不定休
🎫 一般700円、小・中学生500円、未就学児無料(映画鑑賞は別料金)
☎ 025-520-7626
📍 高田駅から徒歩10分

町家交流館 高田小町

明治時代に建築された町家「旧小妻屋」を再生・活用した交流施設です。館内には町家の特徴である吹き抜けや土蔵、案内所やギャラリーなどがあります。

🕒 9:00~22:00 第4月曜(祝日の場合は翌日)・12月29日~1月3日
☎ 025-526-8103
📍 高田駅から徒歩10分

小川未明生誕の地

「日本のアンデルセン」、「日本近代童話の父」と呼ばれる小川未明は明治15年、現上越市幸町に生まれました。生誕の地には、児童文学作家の坪田譲治の書による碑が建てられています。

☎ 025-526-6903(文化振興課)
📍 高田駅から徒歩15分

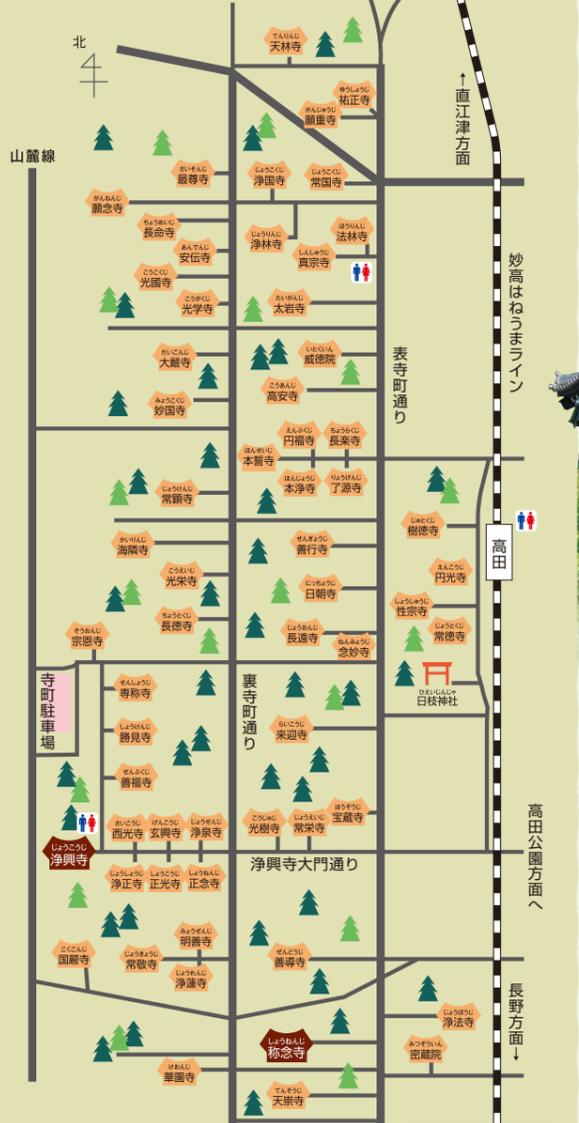
寺町寺社 散歩

今でも60を超える寺社が建ち並ぶ、全国でも珍しい一画です。高田城築城に伴い春日山城下や福島城下、府中(直江津地区)から転移してきたもので、築城以前の上越の古い歴史を知ることができる寺院もたくさんあります。



浄興寺本廟 (市指定文化財)
親鸞聖人の頂骨が納められていて、唐門の彫刻は明治時代の名工篠田宗吉作で、目を見張るものがあります。

☎ 025-524-5970
📍 高田駅から徒歩7分



一鎮上人倚像
上越地区唯一の時宗の寺、称念寺所有の時宗第六代一鎮上人の倚像(イスに腰かけた像)で、たっぷりとした量感に富む南北朝時代の作です。

☎ 025-523-4589 📍 高田駅から徒歩10分



時めぐり コラム 松平忠輝公と五郎八姫

松平忠輝公は文禄元年(1592)、徳川家康の六男として生まれ、8歳で伊達政宗の娘・五郎八姫と婚約しますが、在城わずか2年でこの改易の理由には諸説ありますが、彼の進取の気概が災いしたと言われています。

13歳で忠輝公に嫁いだ五郎八姫は結婚わずか10年、高田入城2年で、夫・忠輝公の改易によって一人伊達家の文元年(1661)、66歳で不運な生涯を閉じたと言われています。

忠輝公は朝熊に2年、飛騨高山に8年という流謫の日々を送っていましたが、寛永3年(1626)、三代将軍家光は、叔父・忠輝公を諏訪高島城主頼水に預け丁寧に扱うよう命じ、以来、天和3年(1683)、92歳で世を去るまで高島城南の丸を配所としました。時はすでに五代将軍綱吉の代でした。

五郎八姫と婚約しましたが、在城わずか2年でこの改易の理由には諸説ありますが、彼の進取の気概が災いしたと言われています。

13歳で忠輝公に嫁いだ五郎八姫は結婚わずか10年、高田入城2年で、夫・忠輝公の改易によって一人伊達家の文元年(1661)、66歳で不運な生涯を閉じたと言われています。

忠輝公は朝熊に2年、飛騨高山に8年という流謫の日々を送っていましたが、寛永3年(1626)、三代将軍家光は、叔父・忠輝公を諏訪高島城主頼水に預け丁寧に扱うよう命じ、以来、天和3年(1683)、92歳で世を去るまで高島城南の丸を配所としました。時はすでに五代将軍綱吉の代でした。



忠輝公は多芸多才の人であったといわれ、墓所である長野県諏訪市の貞松院月仙寺には彼の手柄を偲ばせる遺品が数多く残っています。



正保高田城絵図